

| | |
|------------------|---|
| Title | あとがき |
| Author(s) | 聖学院大学総合研究所 |
| Citation | 聖学院大学総合研究所紀要, No.29 別冊 「市民」とは何か : 現代市民社会論の現状と課題 特集号, 2004.3 : 278-279 |
| URL | http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=3685 |
| Rights | |



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

あとがき

『紀要』二十九号別冊は、二〇〇〇年九月十三、十四、十五の三日間に聖学院大学総合研究所が開催した国際シンポジウム、セミナリーの原稿と記録を再編集したものである。特にこの時点で刊行するのは、二〇〇四年度に開始した、共同研究「グローバルゼーション研究」の基本テキストとするためである。

第Ⅰ部は、九月十三日に、聖学院大学一四〇一教室で開催された国際セミナーのテキストである。このときは、マックス・スタックハウスとステイヴン・カールバーク教授の講演に対して、大学院学生の政治政策学研究所、西八條平和、佐藤貴史、アメリカ・ヨーロッパ文化学研究所、坂下章太郎の三名が質問者となった。この大学院学生の質問は、ポール・シュー専任講師が翻訳をし、予め講演者に質問が手渡されていた。このセミナーには二十八名の参加があり、三日間の国際会議の前哨戦となる実り豊かな議論がなされた。残念ながらその記録は割愛した。

第Ⅱ部は、九月十四日に、池袋・メトロポリタンプラザ十二階会議室で開催された国際シンポジウムの講演原稿に著者が手を加えたものである。当日は、第Ⅰ、Ⅱ部の原稿を『国際シンポジウム資料』（A4判で二五六頁）にまとめ参加者に配布した。英文原文と翻訳文を対訳で掲載した。この別冊では『資料集』と略記した。講演原稿の翻訳は、大澤麦助教授と相澤一特任講師が担当した。

なお、第一、第二部の英文原稿は、『紀要』二十六号、二〇〇三年三月三〇日発行に収録されている。

第Ⅲ部は、シンポジウムの記録である。実際には、この第Ⅱ部の講演原稿どおりではなく、シンポジウムの記録のとおり、補足、追加がなされた。このシンポジウムの翻訳は、近藤正臣教授が担当した。第Ⅱ部の講演原稿とシンポジウムの記録に訳語など若干の違いが見られるが、敢えて統一せず、シンポジウムの雰囲気を残すようにした。

なお、このシンポジウムの参加者は一〇一名で、参加者アンケートは、「聖学院大学総合研究所ニューズレター」十巻四号二四―二六頁、に報告されている。

第Ⅳ部は、九月十五日に、前日の国際シンポジウムの議論を継続するために北区の滝野川会館の会議室において開催された国際セミナーの記録である。三〇名の参加があり、「国際」の名にふさわしい、議論がなされた。この記録は、当日のテープから原稿に起こし、近藤正臣教授が議論を編集したものである。

シンポジウム、セミナーに登場されている飯坂良明大学院長・学長と今井宏客員教授は、二〇〇二年と二〇〇三年に逝去され、内容を校閲していただけなかつたことは誠に残念である。

この三日間をとおして、英語から日本語への通訳を、近藤正臣教授が、また日本語から英語への通訳を、ウィリアム・G・クレーラ教授とポール・シュー特任研究員(当時)が担当した。

また、この会議は財団法人アメリカ研究振興会の助成を受け開催された。記して感謝したい。

聖学院大学総合研究所

二〇〇四年二月二〇日